

CONTENTS

- 01 オープン・カフェ  
近角 真一  
本代会長新年のあいさつ  
リモートワークで  
建築士のビジネスを拓く
- 02 うごき  
見玉 達朗  
専攻建築士制度と継続能力開発  
(CPD) 制度の成立過程と今
- 05 インフォメーション
- 06 次世代の劇空間  
伊東 正示  
劇場の大改革  
(第1回/全12回)
- 08 建築を斬る 48  
五十嵐 太郎  
コロナ禍における海外の建築展示
- 10 CPD技術講座  
永井 香織  
素材からみる建物の維持保全  
超高層マンション3  
-外壁の劣化事例-  
(第9回/全12回)
- 16 編集後記/執筆者紹介

< 広告目次 >

表2/ 建築資料研究社  
三和シャッター工業株式会社  
株式会社東京パススタイル  
SANEI株式会社  
昭和フロント株式会社  
表4/ 総合資格学院

本代会長新年のあいさつ  
リモートワークで  
建築士のビジネスを拓く

東京建築士会 会長  
近角 真一



東京建築士会の皆様、明けましておめでとうございます。  
新型コロナウイルス感染症の第3波が、今までにも増した勢いで拡大を見せている不安の中での年明けになりました。  
いよいよ年初から、各建築士会で、換気診断講習を修了した建築士が地域の飲食店を回って換気改善のためのアドバイス事業を開始します。東京建築士会もこの事業に加わり、コロナの収束に向けた建築士の行動を広くアピールしていくつもりです。

建築士はリモートワークに適した職能

コロナの感染拡大防止策として、社会経済活動を減速させずに人対人の接触機会を少なく保つよう、多くの職場でリモートワーク・テレワークの試みが浸透しています。  
建築士の働きかたを見てみると、最初に発注条件を受け止め、中間点で何回かのラフ成果を見せジャッジを貰い、まとめて最後に成果物を提出する。節目節目のポイントでは発注者との対面によるコミュニケーションが不可欠ですが、それ以外のプロセスは資格が求める規範に基づき自律的に業務は遂行されるので、この意味で建築士はリモートワークに適合しやすい職能であると言えます。

設計案をリモートで共有してコラボレートする

多くの建築士が関与するプロジェクトでは、意匠・構造・設備のそれぞれの専門家や、意匠分野で分業する3D空間・外皮・内皮の各担当建築士が、基本計画・基本設計・実施設計の各進行段階に応じて、成果物を持ち寄り、それらを突き合わせ統合し発注者のジャッジを仰ぐためのミーティングが必要になります。現状のリモート会議システムではとても対応できないと思いますが、BIM画面を共有する複数の人間がディスカッションしながら個々にリモートで画面を操作し最終成果に到達する技術は既に運用されているとのことなので、遠からずリモート会議システムにBIMが登場してくるものと期待されます。

建築士が担う個々の作業ブロックが設計作業の全体像の中で、どの位置にあり、他の建築士の作業ブロックとデータを共有しながら、双方がダイナミックに変化していく様子がリモートで確認できるような協働体制が1組織の中だけでなく複数の組織の連携体においても当たり前になる世界がついそこまで来ています。

ビジネスを切り拓く実習プログラム

現在、コロナの感染拡大防止策として、講演会・講習会など大勢の人を対象にして情報伝達を同時に行うイベントが次々にオンラインに切り替えられるようになっていきます。建築士の技術力を向上させる実習プログラムによって新たなビジネス分野を切り拓く試みが強く求められています。上で述べた今進行中の換気改善プログラムはその典型で、建築士のビジネス分野としては発注者支援を狙った調査鑑定業務ということになります。これの一つの作業ブロックとすると、引き続き改修設計、改修工事監理、建築物維持管理という一連の作業ブロックへと進み、大きな設計ビジネスを掴む契機となることが期待されます。